

『安全・安心な水循環型の下水道処理をすすめます』

１．目指す姿

後年度負担の少ない効率的な下水道のすすむまち
浸水のない居住環境の街で暮らしている

２．指標

３．現状と課題

先進的な雨水と汚水を分けた分流下水道は、汚水と雨水を分けて流し、汚水の公共下水は府流域下水道に長大な地下河川としてつながり、雨水は、雨水下水管路や開発排水路などを通じて下流河川に流れています。下水道の普及で川の水は一部で減少し水涸れも起こり瀬切れし生物の棲まない川となっています。

強い雨の時には、都市のコンクリート不浸透地域が拡大し、同じ降雨量でも約２倍の鉄砲水が流出し、水路や排水路の流下能力を超え、潜在的な浸水区域は拡大しています。

地下に敷設されている長大な下水道管網施設などは、管内面の補強対策やその周辺の安全対策が進められ、下水処理施設は、耐用年数を超え老朽化がすすみ、耐震対策の必要となっています。最近、坂道や平坦道路の下水施設付近で小さな陥没や路面にひび割れが見られ道路と連携した安全管理が必要です

都市化と減反が進行しつつあり農地が持っていた、洪水調節、地下水涵養、生態系保全の機能が衰えつつあり、都市農地を守り水循環の保全が必要です。

そのため、市民生活を豊かにする、自然界がもっていた水循環を尊重し、健全な水循環の確保をすすめるために「水循環運営管理委員会」を設置で水循環を促進し、河川行政と分担し合う計画を検討し、かつての“春の小川”をできるところから復活しています。

下流域の洪水も抑制し水害対策にも役立っています。透水性舗装や道路側溝、住宅の屋根に降った雨も下水に連結せず、雨水枡から地下へ浸透させるなど、都市のさまざまな部分で、水循環の健全策をすすめ、都市農業で自然の水循環を守るまちづくりをすすめています。ます。

地下に敷設されている長大な下水道管網施設などは、管内面の補強対策やその周辺の安全対策が進められています。最近、坂道や平坦道路の下水施設付近で小さな陥没や路面にひび割れが起こり、適切な補修や下水管接続部の老朽化と漏水点検、管内の清掃などを更にすすめることが大切です。

ライフサイクルコストが高くつく現行の公共下水（流域下水接続）を続ける

のか。それとも、長期的なライフサイクルコストも安く効率的な高度処理の合併汚水処理施設も導入するのか。地域からの水循環で川の維持用水を増やす効果もあり快適環境都市として検討を進めます。

近年、都市のコンクリート不浸透地域が拡大し、同じ降雨量でも約 2 倍の鉄砲水が流出し、既設の雨水管や排水路の拡幅整備には限界があり、新たな対策が必要です。そのために、校庭や公共敷地に一時貯留などの総合的な身近な地域治水による浸水対策の検討を進めます。

環境先駆け都市にふさわしく、まちづくりのなかに下水道、水道、水循環などの「水総合管理計画」を策定します。

4. 取組・役割分担

(1) 市民等が取組むこと

身近な雨水貯留浸透マスの設置を検討し推進します

出水期前に水路や溝、泥だめマスの清掃を地域から進めます

環境にやさしい防災型のビオトープをすすめます

マンホール付近のひび割れや陥没を見かけたら市に連絡します

(2) 市民等、行政が協働で取組むこと

下水道、水道、水循環などの「水総合管理計画」を策定します。

地域から総合的な治水対策の検討をすすめます

全ての施設敷地に敷地内水循環（雨水利用など）をすすめます

下水道施設の延命対策と耐震補強をすすめます

公共下水（府流域下水に接続）と合併浄化槽の併用の検討をすすめます

(3) 行政が取組むこと

・ 下水道、水道、水循環などの「水総合管理計画」 合併浄化槽の整備

・ 地域から総合的な治水対策 校庭貯留ビオトープなどの整備

敷地内水循環（雨水利用など）の整備

・ 既設の耐震補強の整備 施設の延命対策の整備 水路内貯留の検討

・ 有害物質から農業用水を守る

5. まちづくりの効果

水循環型の効率的な汚水処理が実現し環境先進都市

後年度の財政負担が軽減され、環境にやさしい街の出現